

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の実態やニーズに応じた教育課程の編成・改善に取り組む。 ②学習意欲の向上を目指し、組織的な授業改善に取り組む。	②言語活動を通じた表現力やコミュニケーション能力の育成をはかる。	②各教科で、単元において一回は、思考、判断、表現活動を展開し、発表の機会を設ける。	②各教科で、単元において一回は、発表の機会を設けられているか。	・授業研究週間を2度設定し、一斉教科会を実施し、研究・改善に努め、発表の機会を設けることができた。 ・授業研究の機会をとらえ、事前の教科会を通し、思考力、判断力、表現力を育む授業の展開を検討し実行した。	・今後も授業研究や平常の授業を通して更なる取組みを進めていくことが必要である。 ・より具体的なテーマを設定し、教科内で共有し、研究・改善に努める。	・充実した学習内容を目指し、アクティブラーニングを追求してもらいたい。 ・英語が小学校で教科になるのでその情報収集を、高校でもしっかり行ってほしい。 ・教育産業の学習システム等も効率よく使って学力向上を目指してほしい。	・一斉教科会を実施し、研究・改善に努め、発表の機会を設けることができた。 ・事前、事後の教科会を通し、思考力、判断力、表現力を育む授業の展開を検討し実行した。 ・テーマ設定を工夫し、生徒たちがより主体的に学習できる授業を目指す必要がある。	・研究週間だけでなく、年間を通して教科内で単元ごとの研究を活性化し、改善に努める。 ・テーマ設定を細分化し、研究の意図を明確にしていく。
2 生徒指導・支援	①新羽生としての誇りと自覚が持てる生徒を育てる。 ②生徒がルール・マナーを守り、安全かつ安心して学べる学校づくりを進める。	①三大行事(体育祭・飛翔祭・ウィンター・ライブ)のさらなる充実をめざす。 ②登下校における自転車と自動車の接触事故や自動二輪車乗車による事故をなくす。	①行事ごとのテーマを決めたり、準備期間での本部とクラスの意見交換を積極的に行う。 ②登下校時の学校周辺の危険箇所定期的に職員による立ち番指導を行う。交通安全教室の開催や地域との連携で小学生の安全登校指導を行う。	①開催後の反省会やアンケートの検証をしながら、次年度への申し送り事項が十分に残すことができたか。 ②交通安全といのちの大切さについて、生徒の指導・啓発活動が実施できたか。	①反省会やアンケートの検証を行い、次年度への申し送りができた。 ②登下校時、交通ルール、マナーを守る指導が徹底できなかった。又、危険な場面での意識を高め交通ルールを守る指導や啓発活動が足りなかった。	②職員による危険箇所での計画的な立ち番指導を実施する。 ②クラスの生活委員によるポスター等を作製するなどの啓発活動を行う。 ②地域、保護者、職員での連携した交通安全指導を計画する。	①三大行事が年々素晴らしくなっている。さらなる充実を期待したい。 ②近隣の道路事情が変わることは必至なので、自転車走行等にさらなる注意喚起をしてほしい。	①三大行事が年々充実してきている。さらなる充実を目指したい。 ②登下校時のルールマナーが徹底できなかったの生徒、職員、保護者、地域一体となって取り組みたい。	①反省会やアンケートを通じて、改善点を明確にして、次の行事に取り組むことが不可欠である。 ②近隣の道路事情が変わることは必至なので、地域、保護者、職員での連携した交通安全指導を計画する必要がある。
3 進路指導・支援	基礎的・汎用的能力の育成を通して確かな進路実現へつなげる。	生徒自らが進んで進路の情報収集に取り組み、確かな進路実現へつなげるよう支援する。	進路ガイダンスの実施を通して、進路情報の提供を行うとともに、基礎的力診断テスト、実力判定テストの振り返り及びスタディサプリ等の活用を通じて支援の補強に努める。	ガイダンス・情報提供等の支援が有効に実施されているか。4月時のG T Z (学習到達度)が夏休み明けに上昇しているか。	情報提供等を通じてG T Zや偏差値等を大幅に伸ばす生徒も見受けられた。	希望する進路実現や進学後も踏まえた学力をつけさせるよう、努める。	・進路情報誌等に左右されすぎない指導をお願いしたい。 ・大学合格者が増えることが新たな学習意欲を生むのではないかな。	・情報提供等を通じてG T Zや偏差値等を大幅に伸ばす生徒も見受けられた。進路実現を目指し、新たな学習意欲を喚起したい。	・総合学習の時間も使い、進路実現を目指した学習、情報収集を目指す。
4 地域等との協働	地域とのつながりを強めるとともに、学校行事等を通じて地域から信頼させる学校づくりを進める。	生徒が校外活動しやすい環境をつくり、地域との交流を深める。	地元イベントや小中学校の行事に参加させることにより、地域との親しい関係を向上させるとともに、アンケート等により、生徒の意識の変容をみる。	生徒の地域に対する親しみが深まるとともに、自己の成長につながったか。	地域の方々から好意的にみられ、機会のあるごとに学校に参加していただくことができた。	一部の生徒による登下校のマナーが地域連携に溝を残す課題でもある。粘り強いマナー指導を継続していく。	・新羽小の土曜塾で小学生に関わっていただきありがたい。今後とも期待している。 ・生徒の通学エリアは多岐にわたっても、この地域にぜひ、関わってほしい。	・地域とのかかわり、特に新羽小の土曜塾においては一定の成果をあげたものの、生徒の通学途中のマナー面での改善をさらに進めていく必要がある。	・居住地にかかわらずこの地域に積極的に関わっていくことにより、地域との信頼関係を築いていく必要がある。
5 学校管理 学校運営	学校運営の効率化と事故、不祥事防止に取り組む。	グループ間、学年間の連携を進め、学校運営の効率化をすすめる。	グループ横断的、学年横断的な教育課題について情報交換を積極的にすすめる。	グループ間、学年間での教育課題の共有ができたか。	・事故・不祥事防止研修会を実施し、教職員の意識を高めることができた。 ・他グループと連携して進めることができた。	・グループ、学年組織では、業務の円滑化を図っているが、より素早く学校運営に対して何事にも対応していく。 ・全体的な連携、機能性を高める工夫等を具体化していく。	・停電等も発生しているようなので、学校施設に不備のないようお願いしたい。 ・グループ間のさらなる連携、意見の取り入れやすいシステムを望む。	・事故・不祥事防止研修会を実施し、教職員の意識を高めることができた。グループ間での連携がすすんでおり、グループ、学年組織では、業務の円滑化を図っている。	・定例会の企画会議だけでなく、サブリーダーも含めた拡大会議の実施を通して、グループ間のさらなる連携、意見の取り入れやすいシステムを構築する。